

人間の安全保障とは

国家の安全保障の目的は外部からの脅威に対して国を守ることです。人間の安全保障はこれとは対照的に、個々の人間を守ることに主眼を置いています。

国家が安全だからといって、必ずしもその国の人々が安全であるわけではありません。もちろん外部の攻撃から国民を守ることは個々の人間の安全にとって必要な条件ですが、それだけでは十分ではないのです。実際に、20世紀には外国軍によって殺された人の数より、自分の国の政府によって殺された人の数の方がはるかに多かったのです。

現在、人間の安全保障という言葉は、国家間の戦争、内戦、ジェノサイド（集団殺害）、移動を強いられる人々など、相互に絡み合った複合的な脅威を説明する際に広く用いられています。人間の安全保障とは、最も控えめに言うのであれば、暴力からの自由、そして暴力の恐怖からの自由を意味します。

人間の安全保障と国家の安全保障は相互に補完しあうべきものであり、通常実際に補完しあっています。しかしいつもそうであるとは限りません。国家が弱体で、地方の武装勢力や民兵がはびこるのにまかせていたり、国家が強大で、国家自体が拷問や裁判抜き処刑などの虐待を行ったりすることで、人間の安全保障は脅かされうるのです。人間の安全保障という言葉を用いる人は誰でも、その第一の目的は個々の人間を守ることであるということに異論はないでしょう。しかしどんな脅威から守られるべきなのかに関しては依然論争が続いています。

人間の安全保障の「広義」の概念が初めてまとめられたのは、国連開発計画（UNDP）が1994年に発表した人間開発報告書でした。現在、広義の概念においては、人間の安全保障は2つの柱、すなわち欠乏からの自由と恐怖からの自由に基づいていると考えられています。広義の人間の安全保障には食料の確保、必要最低限の住居、貧困からの保護が含まれ、「人間の尊厳に対する脅威」からの保護も含まれることがあります。こうした考えを支持する人々は、飢餓、疾病、そして自然災害によって亡くなる人が、戦争やジェノサイドやテロなどで亡くなる人よりもはるかに多いと主張していますが、これは正論です。そしてこれらの脅威は、たいてい相互に関連しています。

これに対し「狭義」の概念では暴力からの自由に焦点を当てます。この概念には犯罪的暴力だけでなく政治的暴力も含まれます。この2つに境界線を引くことはなかなか難しいからです。銃で守りながら麻薬を栽培している犯罪者集団と、反乱の資金を得るために麻薬を栽培している反政府勢力と、実際的な違いがあるでしょうか。非番の兵士が

性暴力をふるうことと、戦争犯罪となりうる軍事作戦としての意図的なレイプと、境界線はどこにあるのでしょうか。

人間の安全保障に対するこれら2つのアプローチは、両方とも人間を中心としたものであり、対立的というより補完的なものです。しかし「広義」の概念は貧困からジェノサイドまで全てを含んでいるため、あまりに包括的すぎて、これまでのところ実際の政策へと展開するにはあまり役立っていないようです。

この小冊子は「人間の安全保障報告書 2005 年版」(オクスフォード大学出版)と「人間の安全保障概要 2006 年版」のデータに基づいており、人間の安全保障の「狭義」の概念に沿っています。世界で起きた暴力を伴う紛争とその深刻度を明らかにするものです。

内容は以下の5つの章から成り立っています。

第1章：国家による戦争遂行

第1章では政府軍が参加する武力紛争は、国家間紛争および内戦ともに減少してきていることを見ます。

第2章：武装勢力と戦場

第2章では政府軍が参加しない武力紛争と、ジェノサイドやその他の「一方的な」民間人大量殺戮^{きつりく}を検証します。

第3章：死者数

第3章ではあらゆる種類の武力紛争や一方的な暴力によって死亡した人々の数に関して、報告された死者数がどの程度信頼できるかを問います。

第4章：人権侵害の国際比較

第4章で明らかになるのは、拷問、子供の兵士、民族浄化、そしてその他の重大な人権侵害に関して信頼にたる数字がほとんどないということです。しかし国家間で比較が可能なものもあります。

第5章：戦争と平和の要因

第5章では武力紛争やその結果の死者数が減り続けている理由を探ります。

目次

	人間の安全保障とは	1
	序文	4
	世界の地域	6
第1章	国家による戦争遂行	8
	国際武力紛争	12
	国家参加型領土内紛争	14
	紛争に費やされた時間	16
第2章	武装勢力と戦場	18
	非国家主体型紛争	22
	一方的暴力	24
第3章	死者数	26
	国家参加型紛争における戦死者数	30
	政治的暴力による死者	32
第4章	人権侵害の国際比較	34
	人権侵害	38
	子供兵士	40
第5章	戦争と平和の要因	42
	戦争と貧困	46
	紛争と政治体制	48
	平和維持活動と武力紛争	50
	データ表	52
	参考文献	60
	用語集	62
	索引	66



Timor-Leste Eskinder Debebe / UN Photo

大きな戦争や重大な人権侵害、そしてかつてないほど破壊的なテロ攻撃の脅威に苦しむこの世界で、政治的な暴力が増え続けていると多くの人々が信じていても驚くに当たりません。

しかし、この「世界銀行アトラス 人間の安全保障はどう守られているか」でこれから明らかになるとおり、このような一般的な通念は間違っているのです。2005年の武力紛争は、それより15年ほどさかのぼった冷戦終結の頃と比べると40%も少なくなりました。多数の犠牲者がでた紛争（報告戦死者数が年間1000人以上の紛争）の減少率はさらに大きく、同期間に80%も少なくなりました。

人々が母国から逃げ出す主な原因となっていた政治的暴力が減少したことを反映して、難民数も冷戦後減ってきています。また、信頼できる確かな情報はほとんどないのですが、政府軍や反政府軍で兵士として働く子供たちの数も減ってきているようです。

戦争は「開発の逆行」であると表現されてきましたが、これには適切な点があります。戦争のもたらすものは死、傷害、疾病や栄養失調の増加、社会基盤や保健医療サービスの大規模な破壊、巨額の資金逃避、そして投資の損失なのです。ポール・コリアー氏*によると標準的な内戦の費用は500億ドル前後とみられます。

戦争によって貧困が深刻化するという事実は当然とも考えられますが、実は貧困も戦争の原因の1つである可能性を示す確かな証拠もあるのです。一人当たりの所得が低い国は、国力が弱いということで、そのような国では貧しい若者たちが仕事も無く、多くは絶望の淵におり、反政府運動に身を投ずることにもなるでしょう。

本書に含まれる地図や図表をみると、冷戦後の戦争の動向が驚くほど変化していることが明らかになります。また武力紛争と経済的・政治的開発との関連が浮き彫りになります。各図版にはその問題に関する簡潔な説明が添えられています。

コフィ・アナン前国連事務総長はかつて「安全保障なくして開発なし」と述べました。そして開発がなければ安全も確保できないのです。「世界銀行アトラス 人間の安全保障はどう守られているか」は、強い影響力のある「人間の安全保障報告書」を執筆したチームが書き下ろしました。この本はその理由を理解する一助となるでしょう。

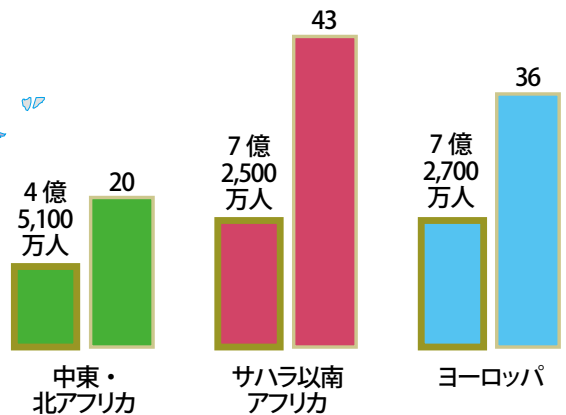
* 訳注：世界銀行を経てオクスフォード大学教授。『最底辺の10億人 最も貧しい国々のために本当になすべきことは何か？』（日経BP社、2008）の著者。

世界の地域

- 北米・中南米
- 中央アジア・南アジア
- 東アジア・東南アジア・オセアニア
- ヨーロッパ
- 中東・北アフリカ
- サハラ以南のアフリカ

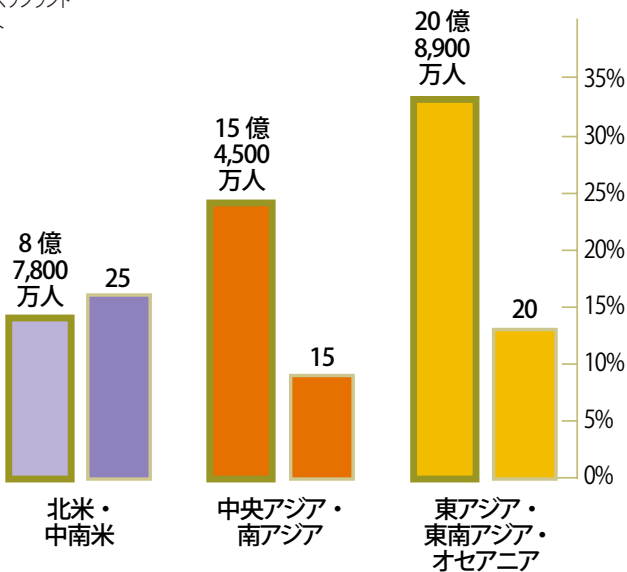
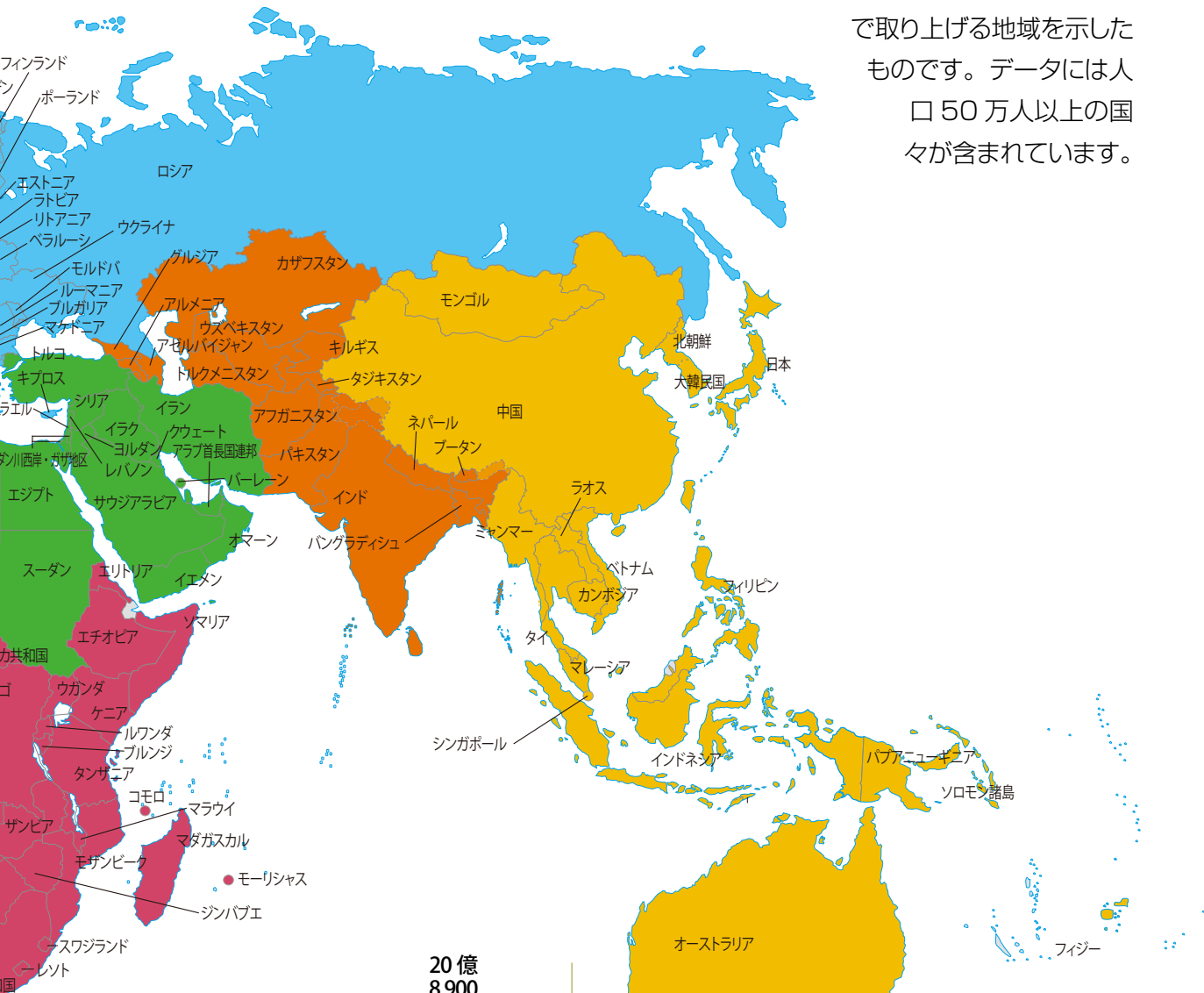


人間の安全保障とは、国家ではなく、なによりもまず人間に関わる問題です。世界の人口の半分以上が、たった2つの地域、すなわち中央アジア・南アジアと東アジア・東南アジア・オセアニアで暮らしています。そして国の数で見ると、ヨーロッパとサハラ以南のアフリカという2つの地域に世界の国々の約半数が存在しています。このミニアトラスで扱われる地域のデータや国別の姿を解釈する際、このような不均衡を頭に入れておくと役に立ちます。



世界の地域

この地図はこのミニアトラスで取り上げる地域を示したものです。データには人口50万人以上の国々が含まれています。



人口と国の数

地域別の人口および国の数の割合 (2005年)

■ 人口 (百万単位の概数)
□ 国の数